

| | |
|-------|-----|
| 普及項目 | 全般 |
| 漁業種類等 | 全般 |
| 対象魚類 | 全般 |
| 対象海域 | 全海域 |

水産普及活動情報の発信

水産研究センター企画情報室・平田郁夫、那須博史

【背景・目的】

現場で活動する普及指導員の活動情報は、水産施策上、非常に重要な情報源である。そこで、関係機関が現場の状況を把握し、本県水産業を振興する施策に反映させるために、普及指導員の活動情報を県関係機関に迅速、かつ効率的に伝えることを目的とした。

【普及の内容・特徴】

- (1) 広域本部水産課の普及指導員が、水産研究センター企画情報室に提供した活動情報を水産普及活動情報としてとりまとめ、関係機関に庁内メールシステムにより情報発信し、庁内の共用キャビネットにも掲載した。
- (2) 内容は、普及指導員による介・海藻類増養殖技術の普及や管理指導、加工品開発やブランド化による付加価値向上支援、浜の活力再生プランの取組への指導等、合計 15 報であった。
- (3) 発信した情報の例
 - ア 天草地区でのヒジキ増殖の取組み
 - イ 天草地区におけるヒトエグサ養殖状況について
 - ウ 持続的なナマコ漁業につなげる取組みへの支援
 - エ 有害赤潮プランクトン検鏡に関する技術指導について
 - オ 天草漁協牛深総合支所青壮年部と拓心高校の連携協働によるキビナゴ加工品の試作・試販
 - カ 『田浦銀太刀』のGI登録申請に係る審査官の現地調査
 - キ 荒尾マジャク釣り大会
 - ク 天草地域における「浜の活力再生プラン」の取組状況について

【成果・活用】

- (1) 本年度も関係機関から、「現場の状況や抱える課題・問題点分かる」、「普及指導員の活動状況や活躍ぶりが分かる」との声が聞かれた。
- (2) 同じ課題を抱える普及指導員相互の情報交換ができた。また、関係者から指摘やアドバイスを受けることで、普及指導員の資質向上や活動の進展が図られた。

水産普及活動情報 (H30-1)

名称 天草地区でのヒジキ増殖の取組み～採苗基板の設置

発信元 天草広域本部水産課（担当者 永田） TEL 0969-22-4367

1 背景

平成29年度は管内5地区で母藻採集、採卵、基板への採苗、現地での採苗基板設置を普及指導し（水産普及活動情報H29-09）、その後、基板でのヒジキ生育状況を調査した。

2 内容

(1) 牛深地区

基板を設置した3ヶ所中、2ヶ所でヒジキの生育が認められ、牛深地区でのヒジキ増殖方法が把握された。一方、28年にヒジキが繁茂した基板にはイガイが濃密に繁殖し、ヒジキの生育が阻害され、新たな課題が生じた。

(2) 倉岳地区

29年度も28年度と同様にヒジキが生育した。しかし、28年度基板の仮根及び卵による新芽の広がりが見えなかったため、ヒジキの非生育場所への基板移設を指導した。

(3) 佐伊津地区

29年度設置基板は、9月の台風で一部が流失し、残った基板を別の場所へ移設したが、ヒジキの生育は悪かったことから、基板の設置方法の再検討が必要である。

一方、28年度の基板は順調に生育し、その生育株数は29年度基板の約1.7倍あり、年を経るにつれて株数が増加し、母藻場造成として効果が上がったと考えられる。

(4) 宮野河内地区

29年度は、西日の影響を避けるように基板を設置したが、ヒジキの生育は従来と同様、不良であった。30年度は、基板の設置について、潮の流れが良好な場所や地盤高をさらに低くするなどの対策を行うこととした。また、一部の基板で食害の影響も認められたため、食害対策の実施も指導した。

(5) 樋島地区

投石礁におけるヒジキ資源増大を目的として、29年度から初めて基板設置に取り組んだが、ヒジキの生育は不良だった。設置場所は潮通しが悪く、ヒジキの生育に適していないことが考えられたため、別の場所での増殖を検討するよう指導した。



3 今後の計画

各地先漁場の環境条件に即した採苗基板の適切な設置、食害対策、競合種対策、芽の広がり状況の把握など具体的に詰めて「基板を用いた増殖手法」を確立していく。

※ この概要版は、現地の普及指導員からの情報をもとに水産研究センター企画情報室で作成しました。水産関係職員の間で情報共有し、今後の効果的な普及活動につなげるため、皆さまのご意見等をお聞かせください。

【情報掲載先】 03 共用キャビネット >>07 農林水産部 >>71 水産研究センター >>04 データ・写真等

【連絡先】 概要版：水産研究センター 企画情報室 0964-56-5112

内容詳細：各情報発信元